

# Partner

[パートナー]

Vol. 01

2021.SEP

創刊号

— 各診療科の医師が専門分野を伝える —

・脳神経外科・

島田 大輔

「頭痛難民」を救う 片頭痛治療



・外科 部長・

奥田 洋一

患者負担を考慮する低侵襲手術

腹腔鏡手術



## 紹介患者様の受診方法について

小山記念病院では、地域の医療機関との連携を充実するために地域医療連携室を設置しています。地域医療連携室では、他の医療機関からの紹介患者様の対応、または患者様のお住いの近隣の医療機関への逆紹介を行っています。

当院は、外来患者様が多く、待ち時間が長くなるため、紹介状持参患者様については、特に事前予約をお勧めしています。

医療機関より、下記にご連絡いただければ、地域医療連携室にて事前予約をお取りします。

「受診予約申込書」と「診療情報提供書」(様式は問いません)を事前にFAXをお願いいたします。

《地域医療連携室直通 医療機関専用ダイヤル》

TEL.0299-85-1133 FAX.0299-88-2211

予約なしで直接ご来院された際は、状況により当日診察をお受けできず、翌日以降のご予約をお取りさせていただく場合があります。

## 紹介状持参患者様 予約取得フロー

- 1 医療機関より地域医療連携室直通ダイヤルに、連絡をお願いします。  

受付時間	月曜日～金曜日	9:00～16:00
	土曜日	9:00～11:00

TEL.0299-85-1133 (地域医療連携室直通)
- 2 受診予約申込書と紹介状をFAXで送信してください。  
**FAX.0299-88-2211** (地域医療連携室直通)  
※ FAX受信は24時間受付可能ですが、受付時間外の場合、予約取得は翌営業日の返信となります。
- 3 ・折り返し地域医療連携室より紹介元医療機関へご連絡をいたします。  
 ・予約を取得し診療予約票をFAXにて送信します。  
(できる限り15分以内にご連絡します)  
 ※診療科によっては、医師の確認が必要なため時間がかかる場合があります。
- 4 予約日に、診察予約票と紹介状原本をご持参いただき、**11番「紹介状窓口」**にご来院していただきますよう、ご案内をお願いいたします。

## 各科緊急連絡先

- 緊急の場合は、下記の医療機関専用ダイヤルへご連絡ください。
- ・脳神経外科ホットライン 080-8815-5322 (24時間対応)
  - ・循環器科ホットライン 080-1078-6668 (24時間対応)
  - ・整形外科ホットライン 080-9159-6089 (月～土 / 8:00～20:00 迄) 日・祝を除く
  - ・歯科・口腔外科 0299-85-1111 (24時間オンコール体制)
  - ・放射線科 0299-85-1173 (画像検査科直通)\*
  - ・上記以外の診療科 0299-85-1133 (地域医療連携室直通)\*
- ※月～金 / 9:00～16:00、土 / 9:00～11:00 日・祝を除く



# Partner

[パートナー]

Vol. 01

2021.SEP

創刊号

— 各診療科の医師が専門分野を伝える —

・脳神経外科・

島田 大輔

「頭痛難民」を救う 片頭痛治療



・外科 部長・

奥田 洋一

患者負担を考慮する低侵襲手術

腹腔鏡手術

KOYAMA MEMORIAL HOSPITAL

紹介患者様の受診方法について

小山記念病院では、地域の医療機関との連携を充実するために地域医療連携室を設置しています。地域医療連携室では、他の医療機関からの紹介患者様の対応、または患者様のお住いの近隣の医療機関への逆紹介を行っています。

当院は、外来患者様が多く、待ち時間が長くなるため、紹介状持参患者様については、特に事前予約をお勧めしています。

医療機関より、下記にご連絡いただければ、地域医療連携室にて事前予約をお取りします。

「受診予約申込書」と「診療情報提供書」(様式は問いません)を事前にFAXをお願いいたします。

《地域医療連携室直通 医療機関専用ダイヤル》

TEL.0299-85-1133 FAX.0299-88-2211

予約なしで直接ご来院された際は、状況により当日診察をお受けできず、翌日以降のご予約をお取りさせていただく場合があります。

紹介状持参患者様 予約取得フロー

医療機関より地域医療連携室直通ダイヤルに、連絡をお願いします。

受付時間	月曜日～金曜日	9:00～16:00
	土曜日	9:00～11:00

TEL.0299-85-1133 (地域医療連携室直通)

受診予約申込書と紹介状をFAXで送信してください。

FAX.0299-88-2211 (地域医療連携室直通)

※FAX受信は24時間受付可能ですが、受付時間外の場合、予約取得は翌営業日の返信となります。

・折り返し地域医療連携室より紹介元医療機関へご連絡をいたします。  
・予約を取得し診療予約票をFAXにて送信します。  
(できる限り15分以内にご連絡します)

※診療科によっては、医師の確認が必要なため時間がかかる場合があります。

予約日に、診察予約票と紹介状原本をご持参いただき、11番「紹介状窓口」にご来院していただきますよう、ご案内をお願いいたします。

緊急の場合は、下記の医療機関専用ダイヤルへご連絡ください。

- ・脳神経外科ホットライン 080-8815-5322 (24時間対応)
  - ・循環器科ホットライン 080-1078-6668 (24時間対応)
  - ・整形外科ホットライン 080-9159-6089 (月～土 / 8:00～20:00 迄) 日・祝を除く
  - ・歯科・口腔外科 0299-85-1111 (24時間オンコール体制)
  - ・放射線科 0299-85-1173 (画像検査科直通)\*
  - ・上記以外の診療科 0299-85-1133 (地域医療連携室直通)\*
- ※月～金 / 9:00～16:00、土 / 9:00～11:00 日・祝を除く

各科緊急連絡先

広報誌 Partner 創刊号

発行日 / 2021年9月1日 発行 / 医療法人社団善仁会小山記念病院

〒314-0030 茨城県鹿嶋市厨 5-1-2 TEL 0299-85-1111 (代表) http://www.koyama-mh.or.jp/





●外科 部長●

## 奥田 洋一

学会・専門医  
日本外科学会専門医  
日本消化器外科学会 消化器外科専門医  
日本消化器外科学会 消化器がん外科治療認定医

ピックアップドクター

# Pick up Dr.



各診療科の医師が専門分野を伝える

●脳神経外科●

## 島田 大輔

学会・専門医  
日本脳神経外科専門医、同指導医  
日本脳卒中学会専門医、同指導医  
日本頭痛学会専門医  
日本神経内視鏡専門医



### 「頭痛難民」を救う 片頭痛治療

#### 軽視されやすい片頭痛診療

片頭痛は全世界で約10億人と推定され、日常生活に支障をきたす疾患の第二であり、若年層では生活負担の最も多い疾患である。有病率は30代から40代女性にかけては15%を超えています。有病率から茨城県で置き換えると、片頭痛患者は、15万人（鹿行地域は1万5千人）と推定されます。これは脳卒中で継続的に治療を受けている方の約4倍になります。

片頭痛は、人間関係の悪化や生活面では、家事ができず、抑うつが増加、生活の質を下げ、仕事面では能率・生産性低下や就業率にも影響を与えます。経済損失は年間3000億円以上と言われています。しかし、問題なのは、頭痛診療を受診した人は3割に満たず、残り7割の人が未

治療である点で『頭痛難民』が多い事です。適切な頭痛診療することで約9割の方が改善いたします。

#### 治療は？

頭痛診療は、頭痛の適用症でないロキソニンだけでなく、現在は様々な治療薬があります。

急性期治療にトリプタン系（5種類）を含め、剤形も多彩になりました。頭痛が週1度以上ある場合は、予防薬の適用となり、片頭痛の適応があるものだけでも4種類以上あり、組み合わせも含めると多種多様な治療が可能です。さらに、今年に入り、新しい予防薬のCGRP受容体拮抗薬（注射薬）が発売され、パラダイムシフトの可能性ががあります。頭痛で悩んでいる方、治療が無

効な方はご紹介【頭痛外来（月曜日：島田）】いただけましたら幸いです

#### 治療後の当院への通院について

まずは、『頭痛難民』を救うことが大事です。また、共存症（精神科、婦人科、耳鼻科眼科、救急科、内科領域の疾患）の除外、薬物乱用性頭痛も考慮することも大切です。

診断率を向上することで、定期的な通院が可能となります。かかりつけ医と専門医が互いに補完し、サポートし合うことで地域医療に貢献できると思います。



#### 胃がんや大腸がんに対する腹腔鏡手術について

腹腔鏡手術は、低侵襲手術（minimally invasive surgery）とも呼ばれ、小さな切開創を通して手術が行われる手術技術です。一般的な開腹手術と比べ、腹腔鏡での手術にはいくつかの利点があります。はじめに、切開創が極端に小さいため術後の痛みが軽くなります。

ついで、内視鏡を用いた拡大した視野で手術を行うため、より安全で根治度の高い手術が可能となります。見た目にも傷が小さいので美容的な効果もありますが、もっとも重要な利点は、消化管の麻痺が起きないことです。大きく開腹しないことにより、胃や腸などの消化管が空気に触れることが極端に少なくなります。

それにより術後の消化管の動きが迅速に回復するため、術後は食事の摂取がスムーズになります。

#### 術後の経過は？

腹腔鏡手術は、手術から短期間で回復し身体への負担が少ないことが患者さんにとって低侵襲であり重要なことと考えています。

胃がんや大腸がんの手術においては、術後早期より経口摂取の再開が可能となり、従来の開腹手術と比較し、およそ4〜5日間の入院期間の短縮が期待されると言われています。そのため、術後の回復により多くの時間を必要とする高齢者の方にとって最適な術式と考え、当院では積極的に腹腔鏡での手術を行っています。

#### 治療後の当院への通院について

術後は経過観察と再発や転移の検査目的に、3カ月に一度の頻度で5年間のフォローアップが必要となります。主な検査内容は、血液検査やCT、超音波等の画像検査に加えて内視鏡検査も行います。



### 患者負担を考える 低侵襲手術 腹腔鏡手術